

典籍を讀むに至りしものなるべきこと疑無し、吾人は回鶻に基督教及びシリヤ文字の入りし時代に關し、如何に精密に總べての事情が能く合一し、又如何に此の碑文が重要なるものなるかを知るを得べし」と説き、Radloff 氏も亦第三碑文即ち「回鶻文字にて書ける最古の碑文は、ネストル教徒によりて東方亞細亞に導かれたるシリヤ文字が、八世紀以前に當り、既に久しく獨立せるトルコ文字と成りたるものならざる可からざることを示し、又此の回鶻文字は八世紀に於て既に遠く北東に擴がりたるものなることを示すものなりとす、此る早き時代に於て、回鶻文字の流布したることに付きては、吾人は此の碑文の發見せらるゝに至る迄、何等の記載を有せず、紀元第十世紀の末に書かれたる王延徳の旅行記中に、高昌の住民の文字に付きて記せるものは、之に關する最古の記録にして、次では第十世紀第十一世紀時代の *Heik* の二三の貨幣に、此の文字を記せるものあるのみ、其の他に於ては、回鶻文字にて記せる資料は遙に後世のものに屬すと」と記せり。

以上の諸説は回鶻文字が何時製作せられたるかに付きては兎も角、其の回鶻碑の建設せられたる時代に於て、既に之が用ゐられたるものなりとする點に於ては皆一致するものなりとす、然れども此等の人々が一樣に回鶻文字回鶻文と認めたりし第三碑の文字及び言語は、既に余が屢々紹介したるが如く、實はソグド (*Sogd*) 文字にしてソグド文なること、一九〇九年 Miller 氏の論述したる所にして、爾來一般に認めらるゝ所なりとす、只だ獨り Radloff 氏は之がソグド文なることに於ては Miller 氏の説を認めたれども、其の文字につきては依然として回鶻文字と稱すべきものなることを主張し「イラン語を用ゐる回鶻字にて書けるもの」と爲し、又「*Kara Balgassun* の回鶻碑文は、九世紀の初に當り、啻にトルコ人のみならず、ソグド人も遠東に於て其の固有の言語を寫す爲に回鶻文字